

# シラバス

令和6年度

学校法人 伊藤学園

優和福祉専門学校

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立	授業の種類 （講義・演習・実習）	授業担当者 宮川 尚 巳	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次 前期	必修・選択 必修
授業の目的 人間の多面的な理解にもとづいて、介護福祉士としての倫理（道徳）的な基盤、コミュニケーションの基礎について理解することを目的とする。 特に、介護福祉における基本的原理である人間の尊厳の保持や自立の考え方、対人援助関係形成の基礎となるコミュニケーションのあり方について理解することを目的とする。			
授業全体の内容の概要 1 人間の尊厳と人権や福祉についての理念 2 介護福祉士に求められる倫理（道徳、規範） 3 介護福祉における利用者の尊厳の保持と自立の支援 4 人間関係の形成とコミュニケーションのあり方			
授業の日程と各回のテーマ 授業回数 1 本科目の目的と授業の概要、人間の多面的な理解 2 人間の尊厳と利用者主体 3 人権思想の潮流とその具現化 4 人権や尊厳に関する日本の諸規定 5 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷(1) 6 社会福祉領域での人権・福祉理念の変遷(2) 7 人権尊重と権利擁護 8 自立の概念の多様性 9 介護を必要とする人々の自立と自立支援 10 自分と他者の理解 11 発達心理学からみた人間関係 12 社会心理学からみた人間関係 13 人間関係とストレス 14 コミュニケーションの基本構造と手段 15 人間関係とコミュニケーション			
使用テキスト・参考文献 「最新・介護福祉士養成講座 1 人間の理解」 中央法規出版		単位認定の方法及び基準 （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、授業態度の総合評価	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション I	授業の種類 ((講義)・演習・実習)	授業担当者 丹澤 亜紀 (実務 介護福祉士)	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次・前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>介護実践に必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うための学習とする。自己覚知と他者理解を深め、人間理解につなげていくことで、人間関係形成のためのコミュニケーション能力を修得することを目的とする。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援関係における人間関係の形成</li> </ul> <p>コミュニケーションの基礎：対人関係とコミュニケーション・コミュニケーションの技法と実際</p> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者に対して、あるいは多職種協働でのチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を習得する。</li> <li>・ アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を習得する。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション—本科目のねらいと概要—</li> <li>2 人間と人間関係</li> <li>3 人間関係とストレス</li> <li>4 対人関係におけるコミュニケーション</li> <li>5 対人援助関係とコミュニケーション</li> <li>6 コミュニケーションの技法と実際①—対人距離 (物理的・心理的距離)</li> <li>7 コミュニケーションの技法と実際②—表情・動作・視線</li> <li>8 コミュニケーションの技法と実際③—受容・共感・傾聴</li> <li>9 コミュニケーションの技法と実際④—言語的コミュニケーション</li> <li>10 コミュニケーションの技法と実際⑤—適切な敬語の利用, 質問が利用者に与える影響</li> <li>11 道具を用いた言語的コミュニケーション①—機器を用いたコミュニケーション</li> <li>12 道具を用いた言語的コミュニケーション②—記述によるコミュニケーション</li> <li>13 組織におけるコミュニケーション</li> <li>14 同僚・多職種とのコミュニケーション</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>最新・介護福祉士養成講座 1巻                  「人間の理解」 中央法規出版</p> <p>最新・介護福祉士養成講座 5巻                  「コミュニケーション技術」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物、出欠席</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーションⅡ		授業の種類 (講義・演習) 実習		授業担当者 高野 享子 (実務 介護福祉士)	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 1年次 後期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎的な知識を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションを学ぶ。</li> <li>・ 組織におけるコミュニケーションについて学ぶ。</li> <li>・ リーダーシップ・フォロワーシップ等について学ぶ。</li> <li>・ チームマネジメントの基礎を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成や人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本が理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目のねらいと概要ー</li> <li>2 ヒューマンサービスの特徴・特性、倫理・専門性を持つことの意義</li> <li>3 福祉サービスの組織の機能と役割（1）</li> <li>4 福祉サービスの組織の機能と役割（2）</li> <li>5 組織の構造と管理、コンプライアンス</li> <li>6 チームとリーダー</li> <li>7 チームの機能と構造</li> <li>8 リーダーシップ・フォロワーシップ</li> <li>9 リーダーの機能と役割</li> <li>10 業務課題の発見と解決過程（PDCA サイクル）</li> <li>11 問題解決法（演習）</li> <li>12 人材育成の方法（1）</li> <li>13 人材育成の方法（2）</li> <li>14 モチベーションマネジメント</li> <li>15 本科目のまとめ</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座（第1巻） 「人間の理解」 中央法規出版</p> <p>最新 介護福祉士養成講座（第5巻） 「コミュニケーション技術」 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、出欠席</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解 I	授業の種類 ((講義) 演習・実習	授業担当者 岩 垣 穂	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>個人の暮らしと生活の在り方を社会福祉との関連でとらえ、意義と理念を理解する。個人と社会の関係性を知り、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助・互助・共助から公助にいたる過程について理解する。その上でわが国の社会保障について基礎的な理解をする。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉を展開する上で、支援の対象としての人間の「生活」を理解する。</li> <li>・ 私たちを取り巻く家族・地域・社会の変化と現状</li> <li>・ 生活の支援と福祉の体系</li> <li>・ 社会保障制度のしくみ</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身も利用者もともに「生活者」であるという視点を養い、人間が「家族」「近隣」「地域」さらに「社会」というそれぞれの単位集団の中で、「その役割を果たすこと」「自己実現をすること」を自らの意志に基づいて果たそうとすることが「自立」であり、さらに「自助」「互助」「共助」「公助」があることを学習し、それぞれの役割と意義を理解する。</li> <li>・ わが国の社会保障制度の基本的な考え方、変遷、しくみについて理解できる。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 第1章社会と生活のしくみ 第1節～第2節</li> <li>2 第1章社会と生活のしくみ 第3節～第7節</li> <li>3 第2章地域共生社会の実現に向けた制度や施策</li> <li>4 第4章高齢者保健福祉と介護保険制度 第1節～第2節</li> <li>5 第4章高齢者保健福祉と介護保険制度 第3節①</li> <li>6 第4章高齢者保健福祉と介護保険制度 第3節②</li> <li>7 第4章高齢者保健福祉と介護保険制度 第3節③</li> <li>8 第5章障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第1節</li> <li>9 第5章障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第2節～第3節</li> <li>10 第5章障害者保健福祉と障害者総合支援制度 第3節</li> <li>11 実習課題確認</li> <li>12 第3章社会保障制度 第1章～第2章</li> <li>13 第3章社会保障制度 第3章～第4章</li> <li>14 第6章介護実践に関連する諸制度 第1節</li> <li>15 第6章介護実践に関連する諸制度 第2節～第4節</li> </ol>			
<b>[使用テキスト・参考文献]</b> 最新 介護福祉士養成講座 第2巻 「社会の理解」 中央法規出版		<b>[単位認定の方法及び基準]</b> (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ	授業の種類 （ <u>講義</u> 演習・実習）		授業担当者 藤 卷 悟 （実務 社会福祉士）
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 2 年次 前・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「社会の理解Ⅰ」と踏まえ、介護福祉士として日常の仕事を行う上で必要となる「<u>介護保険制度</u>」「<u>障害者自立支援制度</u>」および<u>介護実践に関する諸制度</u>を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護保険制度</u></li> <li>・ <u>障害者自立支援制度</u></li> <li>・ <u>介護実践に必要とされる諸制度（個人情報保護法、成年後見制度等）</u></li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉士としての業務に必要な介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関する諸制度の実践的知識を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の概要とねらい</li> <li>2 <u>介護保険制度①</u>ー介護保険制度創設の背景及び目的</li> <li>3 <u>介護保険制度②</u>ー介護保険制度のしくみの基礎的理解</li> <li>4 <u>介護保険制度③</u>ー介護予防の概念</li> <li>5 <u>介護保険制度④</u>ー介護保険制度の財源</li> <li>6 <u>介護保険制度⑤</u>ー介護保険制度における組織・団体の役割</li> <li>7 <u>介護保険制度⑥</u>ー介護保険制度における専門職の役割</li> <li>8 社会福祉基礎構造改革と障害者施策</li> <li>9 <u>障害者自立支援制度①</u>ー制度のしくみ</li> <li>10 <u>障害者自立支援制度②</u>ーサービスの種類</li> <li>11 <u>障害者自立支援制度③</u>ーサービス内容</li> <li>12 <u>介護実践に関する諸制度①</u>ー個人の権利を守る制度の概要</li> <li>13 <u>介護実践に関する諸制度②</u>ー保健・医療にかかわる諸施策</li> <li>14 <u>介護実践に関する諸制度③</u>ー生活を支える諸制度のあらまし</li> <li>15 <u>介護実践に関する諸制度④</u>ー高齢者・障害者の住生活を支援する諸施策</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 第2巻                  「社会の理解」 中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 家族社会学		授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 名輪 求
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前期		必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>  <u>家族に関する基礎的知識</u>および系統的理解を修得する。また現代家族をめぐる危機や課題を学ぶとともに、介護福祉士の視点から今後求められる家族支援のあり方について考える。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>  <u>家族に関する基礎的知識</u>として、家族の歴史と概念、家族の形態と機能、戦後日本の社会と家族問題等の基礎的概念を述べる。          今日の日本社会では、高齢者の介護が普遍的な問題となっている一方、家族の機能低下が指摘されている。このため、家族支援を射程に入れながら、現代の家族病理の諸相を概観し、家族の本来のあり方とその機能を考察する。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b>          人の一生と家族のあり方、日本の家族がどのように変化してきたかを学び、高齢者介護における家族のあり方を考えることで、介護福祉士として家族支援の視点を持ち、適切な判断力・問題解決への対応力を身につける。</p>				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>          コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー家族社会学を学ぶことの意義、家族とは</li> <li>2 家族に関する基礎的知識①ー家族の歴史</li> <li>3 家族に関する基礎的知識②ー核家族と近代家族</li> <li>4 家族に関する基礎的知識③ー結婚</li> <li>5 家族に関する基礎的知識④ー夫婦関係</li> <li>6 家族に関する基礎的知識⑤ー就業と家族</li> <li>7 家族に関する基礎的知識⑥ー親子関係</li> <li>8 家族の変動と多様性①ー虐待と家族</li> <li>9 家族の変動と多様性②ー少子化と子育て環境</li> <li>10 家族の変動と多様性③ー生殖補助医療と家族</li> <li>11 家族の変動と多様性④ー青少年問題と家族</li> <li>12 家族の変動と多様性⑤ー新たな家族像</li> <li>13 家族の変動と多様性⑥ー高齢者介護の諸問題</li> <li>14 家族支援①ー家族支援のあり方</li> <li>15 家族支援②ーこれからの家族支援のゆくえ</li> </ol>				
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>          「家族社会学ー基礎と応用ー (第4版)」          九州大学出版会          『無縁社会』に高齢期を生きる」アユスの森新書</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>          (試験やレポートの評価基準など)          定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)  国 語		授業の種類 ( 講義 ・ 演習 )		授業担当者 高 野 享 子 (実務 介護福祉士)																						
授業の回数  15 回	時間数  30 時間	配当学年・時期  1 年次 前期・後期		必修・選択  必修																						
<p><b>[ 授業の目的・ねらい ]</b></p> <p>介護福祉職には情報をキャッチするための観察する力、正確に記録する力、記録を共有する力、記録を活用する力が求められている。そのためには適切な語彙や正しく表現する知識・技術を身につける。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 記録の意義・目的・効果について学ぶ</li> <li>・ 記録を通し、コミュニケーションのあり方を理解する</li> <li>・ 職業倫理のもと、事実を正しく表現する知識・技術を身につける</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</b></p> <p>介護の専門職としての思考過程が明確になり、記録が活用できる力を身につける。また専門用語等を活用し、正しく表現する力が身につく。</p>																										
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr><td style="width: 15%;">第1回</td><td>記録とは</td></tr> <tr><td>第2回</td><td>記録の実際(事前学習の書き方について)</td></tr> <tr><td>第3回・4回</td><td>記録の実際(学習のまとめの書き方について)</td></tr> <tr><td>第5回</td><td>記録の実際(事前学習について)</td></tr> <tr><td>第6回・7回</td><td>記録の実際(実習記録の書き方について)</td></tr> <tr><td>第8回</td><td>記録の実際の振り返り</td></tr> <tr><td>第9回</td><td>記録の実際(報告書の書き方について)</td></tr> <tr><td>第10回・11回</td><td>記録の実際(報告書の修正)・発表原稿について</td></tr> <tr><td>第12回</td><td>記録の実際(実習記録について)</td></tr> <tr><td>第13回</td><td>記録の実際(報告書について)</td></tr> <tr><td>第14回・15回</td><td>記録の実際(報告書の修正)</td></tr> </table>					第1回	記録とは	第2回	記録の実際(事前学習の書き方について)	第3回・4回	記録の実際(学習のまとめの書き方について)	第5回	記録の実際(事前学習について)	第6回・7回	記録の実際(実習記録の書き方について)	第8回	記録の実際の振り返り	第9回	記録の実際(報告書の書き方について)	第10回・11回	記録の実際(報告書の修正)・発表原稿について	第12回	記録の実際(実習記録について)	第13回	記録の実際(報告書について)	第14回・15回	記録の実際(報告書の修正)
第1回	記録とは																									
第2回	記録の実際(事前学習の書き方について)																									
第3回・4回	記録の実際(学習のまとめの書き方について)																									
第5回	記録の実際(事前学習について)																									
第6回・7回	記録の実際(実習記録の書き方について)																									
第8回	記録の実際の振り返り																									
第9回	記録の実際(報告書の書き方について)																									
第10回・11回	記録の実際(報告書の修正)・発表原稿について																									
第12回	記録の実際(実習記録について)																									
第13回	記録の実際(報告書について)																									
第14回・15回	記録の実際(報告書の修正)																									
<p><b>[使用テキスト]</b></p> <p>「国語の常識総演習」                  「コミュニケーション技術」                  「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」                  「介護過程」「介護総合演習」                  国語辞書を、各自必携。</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>毎回の授業参加の様子(態度・欠席)、課題の達成度、定期試験などを総合して評価する。</p>																							

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 統計・情報処理		授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 横山 浩一	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 1年次 前期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]          情報化社会における統計や情報処理の方法を理解し、効果的に活用できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          PC操作の基礎知識を学び、活用の方法を理解するとともに、セキュリティを配慮して実際に使用できる技能を培う。</p> <p>[授業終了時の達成課題（到達目標）]          PC操作により文章作成、統計処理、効果的なプレゼンテーションの技能を身に付ける。又、必要な情報収集と処理ができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]          コマ数</p> <p>1・2 PC学習の心構え・Windowsの基本          3・4 セキュリティ・文字入力・変換          5 ファイルの保存・ページ設定・印刷・移動・コピー          6・7 操作の基本          8・9 表の書式・ワードアート・クリップアート          10・11 Excel 関数 グラフ 罫線          12・13 グラフ 応用関数          14・15 パワーポイント</p>					
[使用テキスト・参考文献]  「30時間でマスター office 2016Windows10対応」実教出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  定期試験、提出物、授業態度		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I （介護対象論）	授業の種類 （講義） 演習 ・ 実習	授業担当者 三浦 勇太 （実務 介護福祉士）	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法則を通して理解する。                  介護を必要とする人は“生活する人”として受け止め、利用者の生き方、生活習慣などその人らしさを尊重し、<u>尊厳を守る介護、自立に向けた介護</u>について理解することを深める。</p> <p>また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護の意味を理解するとともに、専門職による「介護」が誕生した社会的な背景および介護の概念の変遷について学ぶ。</li> <li>・ 私たちの生活を理解し、介護を必要とする人たちの暮らしの多様性について事例を通じて学ぶ。</li> </ul> <p><b>[ 授業修了時の達成課題（到達目標） ]</b></p> <p>介護の意義と役割及び専門性について理解し、介護福祉士として介護を必要とする人達の多様な暮らしをどのように支援していけばよいか理解できる。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 介護福祉士のイメージ</li> <li>2 介護の成り立ち</li> <li>3 介護の成り立ち（介護の歴史）</li> <li>4 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景</li> <li>5 介護の概念の変遷（1970～1980 年代）</li> <li>6 介護の概念の変遷（1980～1990 年代）</li> <li>7 介護の概念の変遷（1990～2000 年代）</li> <li>8 介護福祉士の基本理念（尊厳を支える介護）</li> <li>9 介護福祉を必要とする人の理解（私たちの生活の理解）</li> <li>10 介護福祉を必要とする人の理解（私たちの生活の理解）</li> <li>11 介護福祉を必要とする人の理解（高齢者の暮らし）</li> <li>12 介護福祉を必要とする人の理解（高齢者の暮らし）</li> <li>13 介護福祉を必要とする人の理解（障害者の暮らし）</li> <li>14 介護福祉を必要とする人の理解（その人らしさ・生活ニーズ）</li> <li>15 介護福祉を必要とする人の理解（生活のしづらさの理解とその支援）</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>最新・介護福祉士養成講座第 3 ・ 4 巻                  「介護の基本 I ・ II」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度、出欠席</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ (介護従事者の倫理)		授業の種類 (講義)・演習・実習		授業担当者 三浦 勇太 (実務 介護福祉士)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前・後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>求められる介護福祉士になるために介護福祉士の基本理念を理解し、介護にたずさわる人が持つべき職業倫理を学び、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士の基本理念（ノーマライゼーション・QOL・自己決定・利用者主体）、介護従事者の倫理について学び、演習にて理解を深める。また、その人らしさを尊重し、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について理解し、ICFを活用できるように学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉士の基本理念（ノーマライゼーション・QOL・自己決定・利用者主体）、ICF、介護従事者の倫理を理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を習得する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 介護福祉士の役割と機能（介護福祉士の活動の場と役割）</li> <li>2 事例演習</li> <li>3 社会福祉士及び介護福祉法</li> <li>4 介護福祉士に求められる役割とその養成</li> <li>5 介護福祉士を支える団体（養成施設協会・介護福祉士学会・教育学会）</li> <li>6 介護福祉士を支える団体（日本介護福祉士会）</li> <li>7 介護福祉士の倫理</li> <li>8 日本介護福祉士会倫理綱領</li> <li>9 事例演習</li> <li>10 自立に向けた介護福祉士のあり方（自立支援の考え方）</li> <li>11 自立に向けた介護福祉士のあり方（自立支援の考え方）</li> <li>12 事例演習</li> <li>13 ICFの考え方</li> <li>14 高齢者・障害者のストレングス（演習）</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座第3・4巻 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅲ（介護サービス）		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 野中 和美 (実務 看護師)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p><u>介護サービス提供の場の特性</u>について、これまでの居宅から地域密着型サービスのサービスが求められる時代的背景とその取り組み、医療・保健・福祉との<u>介護サービスの連携</u>の必要性を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護サービス提供の場の特性について理解し、医療・保健・福祉との連携の必要性を学ぶ。また、介護の専門性のレベルを向上する必要性を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護サービスの提供について、<u>介護サービスの概要</u>、チームアプローチによるサービスの提供、他職種の専門性の理解と地域との<u>連携</u>について実践現場のイメージが図れる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 <u>介護サービスの概要</u></li> <li>3 <u>介護サービスの概要</u></li> <li>4 <u>介護サービスの概要</u>（ケアプラン、ケアマネジメントの流れ）</li> <li>5 <u>介護サービスの概要</u>（ケアプラン、ケアマネジメントのしくみ）</li> <li>6 介護保険サービスの種類 介護施設・ユニットケアとは</li> <li>7 介護保険サービスの種類 富山型デイサービス・「バイスティクの7原則」</li> <li>8 介護保険サービスの報酬</li> <li>9 介護保険サービスの報酬</li> <li>10 サービスの報酬、算定基準</li> <li>11 サービスの報酬、算定基準</li> <li>12 <u>介護サービス提供の場と特性</u>（居宅）</li> <li>13 <u>介護サービス提供の場と特性</u>（施設）</li> <li>14 <u>介護サービス提供の場と特性</u></li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
使用テキスト・参考文献 最新・介護福祉士養成講座第3・4巻 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅳ （介護従事者の安全）	授業の種類 （講義・演習・実習）	授業担当者 丹澤 亜紀 （実務 介護福祉士）	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  多様な介護現場で利用者の生活の安全と<u>介護従事者の安全</u>を守り介護を展開するための基礎的な力を培い、応用力を身につける。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                  介護における安全の概念を予防・自立の視点から考察し、安全を確保するための知識、技術、事故防止や安全の対策、感染対策、緊急時対応、介護従事者の健康管理の必要性について学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b>                  ①介護実践における安全を管理（安全対策・感染対策）するための基礎知識・技術が理解できる。                  ②介護従事者自身の健康管理や労働環境の管理について理解できる。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>                  コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 感染予防（感染予防の意義と介護 基礎知識と技術）</li> <li>3 感染予防（個別の感染対応・対策）</li> <li>4 感染予防（感染管理 衛生管理：演習）</li> <li>5 介護と安全の概念（観察 正確な技術 予測・分析）</li> <li>6 安全の確保とリスクマネジメント（事故防止と安全対策）セーフティマネジメント</li> <li>7 安全の確保とリスクマネジメント（事故防止と安全対策）緊急連絡システム</li> <li>8 安全の確保とリスクマネジメント（医療対応 転倒・転落防止、骨折予防など）</li> <li>9 安全の確保とリスクマネジメント（防火・防災対策 利用者の生活の安全）</li> <li>10 安全の確保とリスクマネジメント（ヒヤリハット）</li> <li>11 <u>介護従事者の安全</u>（心の健康管理ーストレス 燃え尽き症候群他）</li> <li>12 <u>介護従事者の安全</u>（腰痛予防の対策）</li> <li>13 <u>介護従事者の労働安全</u></li> <li>14 <u>介護従事者の労働安全</u></li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  最新 介護福祉士養成講座（第4巻）                  第3章・第5章                  「介護の基本Ⅱ」中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  （試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本V（ <u>介護協働・連携</u> ）		授業の種類 （ <u>講義</u> ） 演習・実習		授業担当者 大浦 博文 (実務 介護福祉士)	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 2年次 後期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>専門職能力を活用してチーム援助を行うことで、より良い介護を提供することの必要性を理解し、<u>介護実践にける協働・連携</u>のあり方を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>身体、精神の健康状態の変化に介護福祉士としての対応できる能力を養い、同時に保健医療関係者及び機関との連携、協働のあり方について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>専門職能力を活用してチーム援助を行うことで、より良い介護を提供することの必要性を理解し、<u>介護実践にける協働・連携</u>のあり方について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 チームワークの必要性</li> <li>3 チームワークの必要性</li> <li>4 記録と情報の共有化</li> <li>5 記録と情報の共有化</li> <li>6 法令に基づく連携</li> <li>7 法令に基づく連携</li> <li>8 <u>介護実践における連携</u> (保健医療職種の機能と役割・連携)</li> <li>9 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 チームアプローチ)</li> <li>10 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 チームアプローチ)</li> <li>11 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 チームアプローチ)</li> <li>12 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 地域連携の意義と目的)</li> <li>13 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 地域連携 地域住民・ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割)</li> <li>14 <u>介護実践における連携</u> ( 地域包括支援センターの機能と役割、連携)</li> <li>15 <u>介護実践における連携</u> (市町村、都道府県の機能と役割、連携)</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
最新・介護福祉士養成講座第3・4巻 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版			(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本VI（リハビリテーション）		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 小林 正樹 (実務 理学療法士)	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 2年次 前期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>リハビリテーションの概念を理解し、生活支援の向上の重要な役割となっていて介護予防の取り組みを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>リハビリテーションの目的は人間らしく生活できるよう支援することである事について学ぶ。また、介護保険におけるリハビリテーションと専門職との連携について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>リハビリテーションの目的は人間らしく生活できるよう支援することであるについて理解する。また、介護保険におけるリハビリテーションと専門職との連携について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>第1回 オリエンテーション（計画・授業の進め方・留意点）</p> <p>第2回 自立支援の考え方～自立支援とは～</p> <p>第3回 自立支援の考え方～自立支援とエンパワメント～</p> <p>第4回 自立支援の考え方～自立支援とICFの考え方～</p> <p>第5回 ICFの考え方～介護におけるICFのとらえ方～</p> <p>第6回 自立支援とリハビリテーション～リハビリテーションとは～</p> <p>第7回 自立支援とリハビリテーション～リハビリテーションの実際～</p> <p>第8回 自立支援とリハビリテーション～障害の理解と評価～</p> <p>第9回 自立支援とリハビリテーション～自立のとらえ方～</p> <p>第10回 自立支援とリハビリテーション ～リハビリテーションにおける介護福祉士の役割～</p> <p>第11回 自立支援とリハビリテーション～リハビリテーションの理念・目的と役割～</p> <p>第12回 自立支援と介護予防～概要・種類・特徴</p> <p>第13回 自立支援とリハビリテーション～高齢者の特性・介護予防の実際～</p> <p>第14回 自立支援とリハビリテーション～介護予防における介護福祉士の役割～</p> <p>第15回 本科目のまとめ</p>					
[使用テキスト・参考文献] 「最新 介護福祉士養成講座③ 介護の基本I」 中央法規			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 I	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 横 森 将 輝 (実務 介護福祉士)	
授業の回数 8 回	時間数 16 時間	配当学年・時期 1 年次 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士としてコミュニケーションはすべての対人援助技術の基盤となるものである。自身の態度やコミュニケーションがいかにかに他者へ影響を及ぼすかを理解するなかで、多種多様な利用者の状態、ニーズに対応するための適切なコミュニケーションの手段・方法を学ぶ。</p> <p>また家族・多職種間でもその状況に応じたコミュニケーション方法の理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>自己覚知 (エゴグラム、日常生活の振り返り等) を通し、自分自身の他者との関わり方を再認識、見直しを行うなかで介護において必要な<u>尊厳を護るコミュニケーション技術</u>の基本を理解する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における基礎的なコミュニケーション技術の理解ができる。</li> <li>・自身の特性を客観的に認識でき、それを言語化できる。</li> <li>・他者に対する自身のコミュニケーションの特性を理解、修正ができる。</li> <li>・さまざまな疾患に応じた適切なコミュニケーション方法が理解できる。</li> </ul>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要説明 援助者としての自己覚知・理解</li> <li>2. 介護福祉実践におけるコミュニケーションの意義・目的・役割</li> <li>3. 介護におけるコミュニケーションの基本1 (受容・共感・傾聴)</li> <li>4. 介護におけるコミュニケーションの基本2</li> <li>5. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際1 (信頼関係・チームケア)</li> <li>6. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際2 (事例に基づく)</li> <li>7. 対象者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際1 (事例に基づく)</li> <li>8. 対象者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際2 (事例に基づく)</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 第5巻                  「コミュニケーション技術」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 丹澤 亜紀 (実務 介護福祉士)
授業の回数 8回	時間数 16時間	配当学年・時期 1年次 前・後期		必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>介護福祉士としてコミュニケーションはすべての対人援助技術の基盤であり、チームケアをおこなうにあたっては多職種との連携、コミュニケーションは欠かすことのできないものである。</p> <p>また文書を通して介護実践に必要とされる情報を多職種に伝達する技術を学び、個人情報情報の扱い方、情報の共有、管理方法を理解し、実践可能となる能力を培う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>介護福祉士の専門性を発揮するためには、コミュニケーションは利用者・家族だけでなく多職種との連携に際しても重要な意味を持つ。</p> <p>そのなかで本授業では、各専門職と文章を通して意思疎通を図るための記述方法を学んでいく。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種とのコミュニケーションに対する重要性・方法を理解できる。</li> <li>・介護記録の重要性を理解し、記録を書く際の留意点を学ぶ。</li> <li>・個人情報の取扱いに関して理解できる。</li> <li>・会議の行い方や効率的な進行について理解する。</li> <li>・プロセスレコードを通して自身のコミュニケーションを振り返り、反省できる。</li> </ul>				
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護におけるチームのコミュニケーション (介護記録の意義と役割)</li> <li>2. 介護におけるチームのコミュニケーション (介護記録の書き方と注意点)</li> <li>3. 介護におけるチームのコミュニケーション (ICTを活用した介護記録 個人情報)</li> <li>4. 介護におけるチームのコミュニケーション (報告と申し送り 会議の意義と目的)</li> <li>5. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> <li>6. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> <li>7. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> <li>8. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座 第5巻 「コミュニケーション技術」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度、ワーク		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅲ	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 利根川 圓 須田 千文	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護場面における利用者と家族とのコミュニケーションを理解し、利用者に関わる人々と利用者の関係調整能力を習得する。また文書を通して、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学び、個人情報の扱い方や、情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能となる能力を培う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護場面における利用者と家族とのコミュニケーションにおいて、利用者のコミュニケーション障害の程度や種別について理解し、観察を通して把握する必要性を学ぶ。利用者と介護者の心にゆとりを持たせ、ストレス軽減を目指したコミュニケーションの技術を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護場面における利用者と家族とのコミュニケーションにおいて、利用者のコミュニケーション障害の程度や種別について理解し、観察を通して把握する必要性を学ぶ。利用者と介護者の心にゆとりを持たせ、ストレス軽減を目指したコミュニケーションの技術を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーション障害の程度や種別</li> <li>2 介護場面における利用者と家族とのコミュニケーション障害の特性に応じたコミュニケーション</li> <li>3 手話の構成要素、身につけるための留意点</li> <li>4 感情・時間・物の表現・動作を表す表現</li> <li>5 数の表現・指文字</li> <li>6 あいさつと自己紹介</li> <li>7 人物の表現</li> <li>8 会話練習</li> <li>9 点字の基礎</li> <li>10 仮名づかい</li> <li>11 数字</li> <li>12 アルファベット</li> <li>13 記号類</li> <li>14 点字表記 (点字の決まり)</li> <li>15 簡単な各種文書の書き方</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「手にことばを 初級編」東京都聴覚障害者連盟                  「初めての点訳 第2版」全国視覚障害者情報提供施設協会</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物、出欠席</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )	授業担当者 横森 将輝(実務 介護福祉士) 丹澤 亜紀(実務 介護福祉士)	
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・時期 1 年次 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。			
[授業全体の内容の概要] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動の介護安楽を促すための介護の技術を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用し、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い、福祉用具を活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動の介護、自立に向けた睡眠の介護、安楽を促すための介護の技術を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1～2 自立に向けた生活支援における共通知識（丹澤） 生活支援の考え方 ICF の考え方 福祉用具の活用 性に対する介護 3～5 自立に向けた居住環境の整備（環境整備・ベッドメイキング・リネンの管理） 居住環境整備の意義と目的 安全で心地よい生活の場づくり（丹澤） 6 *デモンストレーション（丹澤・横森） 7～8 学内演習（環境整備・ベッドメイキング）（丹澤・横森） 9～14 自立に向けた移動の介護（横森） ・ボディメカニクス・体位変換、移乗の介護、移動の介護、搬送法 15 *デモンストレーション（体位変換・ボディメカニクス）（横森・丹澤） 16～17 学内演習（体位変換・ボディメカニクス）（横森・丹澤） 18 *デモンストレーション（横森・丹澤） 19～20 学内演習（移乗介助）（横森・丹澤） 21 *デモンストレーション（横森・丹澤） 22～23 学内演習（移動介助：杖歩行・車椅子介助・搬送法）（横森・丹澤） 24～25 安楽な介護（安楽・睡眠）（丹澤） 26 *デモンストレーション（安楽な体位）（丹澤・横森） 27～28 学内演習（安楽な体位・シーツ交換）（丹澤・横森） 29～30 前期実技試験（横森・丹澤）			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座第 6・7 巻 「生活支援技術 I・II」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物 授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)  生活支援技術Ⅱ	授業の種類  (講義・演習・実習)	授業担当者 雨宮恵子 雨宮邦子 石原まゆみ 丹澤亜紀 (実務介護福祉士) 横森将輝 (実務介護福祉士)	
授業の回数 43回	時間数 86時間	配当学年・時期 1年次 前・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。			
[授業全体の内容の概要] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の利用者の生活違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた食事の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた排泄の介護の技術を学ぶ。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた食事の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた排泄の介護の技術を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1～8 <u>自立に向けた栄養・食事の介護</u> (雨宮恵子) 生活と食事身体機能と栄養 カロリー計算食事形態 治療食の理解 9～11 <u>自立に向けた食事の介護</u> 食事に関する利用者のアセスメント (横森) 12 *デモンストレーション (横森・丹澤) 13・14 学内演習 (食事介助) (横森・丹澤) 15～22 <u>自立に向けた家事の介護</u> 調理の基本 利用者の状態・状況に応じた調理 (石原まゆみ) 23～30 <u>自立に向けた家事の介護</u> (被服) (雨宮邦子) 家事の意義と目的 家事に関する基礎知識 (洗濯・掃除・ごみ捨て・裁縫) 31～37 <u>自立に向けた排泄の介護</u> (丹澤) 排泄に関する利用者のアセスメント 気持ちよい排泄を支える心身の状態・状況に応じた介護 38 *デモンストレーション (丹澤・横森) (ポータブルトイレ・採尿器・差し込み便器) 39～40 学内演習 (丹澤・横森) 41 *デモンストレーション (陰部洗浄・おむつ交換) (丹澤・横森) 42～43 学内演習 (丹澤・横森)			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座第6・7巻 「生活支援技術」中央法規出版 2022年版「食品成分表」実教出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物 授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅲ	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 横森将輝 (実務 介護福祉士) 高野享子 (実務 介護福祉士) 丹澤亜紀 (実務 介護福祉士) 塩澤紀子 (実務 看護師)	
授業の回数 40回	時間数 80時間	配当学年・時期 1年次 後期 2年次 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。			
[授業全体の内容の概要] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の活動の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた身支度の介護、自立に向けた清潔保持・入浴の介護、終末期の介護および、緊急・災害時の介護の技術を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた身支度の介護、自立に向けた清潔保持・入浴の介護、終末期の介護及び、緊急・災害時の介護の技術を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
1～2 自立に向けた身支度の介護【整容・口腔ケア】(丹澤) 3 *デモンストレーション(丹澤・横森) 4～5 学内演習(丹澤・横森) 6～7 自立に向けた身支度の介護【衣服着脱】(丹澤) 8 *デモンストレーション(丹澤・横森) 9～10 学内演習(丹澤・横森) 11～14 自立に向けた入浴・清潔保持の介護(横森) ・入浴の意義・目的、利用者の状態・状況に応じた入浴の介護 ・福祉用具、事故の対応、多職種連携 15 *デモンストレーション(横森・丹澤) 16～17 手浴・足浴学内演習(横森・丹澤) 18 *デモンストレーション(横森・丹澤) 19～20 洗髪学内演習(横森・丹澤) 21 *デモンストレーション(横森・丹澤) 22～23 清拭学内演習(横森・丹澤) 24 *デモンストレーション(横森・丹澤) 25～28 入浴学内演習(横森・丹澤) 29～31 終末期の介護【褥瘡】(塩澤) 32 *デモンストレーション(塩澤・横森) 33～34 学内演習(塩澤・横森) 35～36 緊急・災害時の介護(高野) ※2年次・前期 37～38 *学内演習(高野・横森・丹澤) ※後期実技試験(横森・丹澤) 39～40 生活支援技術Ⅱの技術含む			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座第6・7巻 「生活支援技術Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物 授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術ⅣA	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 清水 毅 (実務 介護福祉士) 三井 たかね (実務 看護師) 井原純平(実務精神保健福祉士)	
授業の回数 24 回	時間数 48 時間	配当学年・時期 1 年次 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。			
[授業全体の内容の概要] 生活行為を成立させる技術として、原理・法則性に基づいた技術を習得し、その上で固有の障害に対する応用技術、生活の基本である技術 (生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身支度の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護) を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 生活行為を成立させる技術として、原理・法則性に基づいた技術を習得し、その上で固有の障害に対する応用技術、生活の基本である技術 (生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身支度の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護) を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1～3 視覚障害に応じた介護 (清水) 生活の理解 アセスメント 感覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション 4～6 聴覚・言語障害に応じた介護 (清水) 生活の理解 アセスメント 感覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション 7～8 運動機能障害に応じた介護 (清水) 生活の理解 アセスメント 運動機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション 9～11 知的障害に応じた介護 (三井) 生活の理解 アセスメント 認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション 12～14 発達障害に応じた介護 (三井) 生活の理解 アセスメント 認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション 15～16 重複障害に応じた介護 (三井) 生活の理解 アセスメント 重複障害者の介助の留意点 コミュニケーション 17～21 精神障害に応じた介護 (井原) 精神障害者の基礎知識 生活の理解 アセスメント目標設定 家事支援と環境整備 22～24 事例演習 (井原)			
[使用テキスト・参考文献] ・「最新 介護福祉士養成講座 第 8 巻 生活支援技術」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物 授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術IVB	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 山本 浩美 (実務 看護師)
授業の回数 18回	時間数 36時間	配当学年・時期 2年次 前・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害があってもこれまでの生活が継続できるように、現在の状況を理解し、潜在能力を引き出し、自立を目指す介護が実践できるための基礎的能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症・高次機能障害・内部障害をもたらす疾病・症状・特徴を理解し、障害のある人の生活を支援する具体的方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>認知症・高次機能障害を抱えて生活する利用者の生活状況をアセスメントし、他職種と協働して生活支援ができる知識・技術を習得する。</p> <p>内部障害(心臓・呼吸・腎臓・肝臓・膀胱・直腸・免疫機能障害)を抱えて生活する利用者の生活状況をアセスメントし、他職種と協働して生活支援ができる知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1～8 認知症のある人に応じた介護、高次脳機能障害に応じた介護 ) 生活の理解 アセスメント 機能が低下している人の介助の留意点・コミュニケーション</p> <p>9 授業の概要 (内部障害の定義と理解)</p> <p>10 内部障害 (心臓機能障害) に応じた介護と生活支援技術</p> <p>11 内部障害 (呼吸器機能障害) に応じた介護と生活支援技術</p> <p>12 内部障害 (腎臓機能障害) に応じた介護と生活支援技術</p> <p>13 内部障害 (膀胱・直腸機能障害) に応じた介護と生活支援技術</p> <p>14 内部障害 (肝臓機能障害) に応じた介護と生活支援</p> <p>15 内部障害 (ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害) に応じた介護と生活支援</p> <p>16 内部障害 (小腸機能障害) に応じた介護と生活支援技術 (IVH・胃瘻・経管栄養) の生活支援</p> <p>17 演習</p> <p>18 演習</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・最新 介護福祉士養成講座 第8巻 「生活支援技術」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物 授業態度</p>	





## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ	授業の種類 ( 講義 ) ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 原 藤 愛 (実務 介護福祉士)
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 2 年次 前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者の多様なニーズに答えるために、<u>介護過程におけるチームアプローチ</u>の重要性と介護福祉士として求められる専門性を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士として求められる専門性を理解し、利用者の多様なニーズに答えるために、チームの一員としてカンファレンスの意義・目的を理解し、多職種との連携のあり方を学ぶ。<u>介護過程におけるチームアプローチ</u>について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>利用者の多様なニーズに答えるために、<u>介護過程におけるチームアプローチ</u>の重要性と介護福祉士として求められる専門性を理解し、その能力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 介護福祉士としての専門性</li> <li>3 専門職間の連携、チームワークの重要性</li> <li>4 ケアワークとソーシャルワーク</li> <li>5 ノーマライゼーション</li> <li>6 バイスティックの7原則</li> <li>7 個別援助技術</li> <li>8 集団援助技術の展開過程</li> <li>9 介護保険下でのケアマネジメントと介護過程</li> <li>10 <u>介護過程とチームアプローチ</u>（ケースカンファレンス）</li> <li>11 <u>介護過程とチームアプローチ</u>（サービス担当者会議）</li> <li>12 <u>介護過程とチームアプローチ</u>（他職種との連携）</li> <li>13 事例演習</li> <li>14 事例演習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
使用テキスト・参考文献  最新・介護福祉士養成講座第9巻 「介護過程」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など)  定期試験、提出物、出欠席	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 (実習指導 I)	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山本 浩美 (実務 看護師)	
授業の回数 23 回	時間数 46 時間	配当学年・時期 1 年次 前・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、能力等について個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。			
[授業全体の内容の概要] 介護実習の意義・目的、施設の機能・役割・特徴、介護業務、施設利用者を理解し、実習への心構えと事前学習について学ぶ。基本的な生活援助技術について学ぶ。また、他職種との連携方法や施設運営及びサービス全般について学ぶ。実習との組み合わせての学習とする。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、能力等を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 I-1実習オリエンテーション(実習の意義 目的 実習方法 実習の心得) 2・3 <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション</u> 4 コミュニケーション技術 反省 記録の書き方 5 施設実習に対する自己目標 評価について 6 直前指導 7～9 介護実習まとめ(報告書作成) 10・11 学内報告会 12 報告書修正 13・14 I-2実習オリエンテーション(実習の意義 目的 実習方法 実習の心得) <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション</u> コミュニケーション技術 反省 記録の書き方 15～17 施設実習に対する自己目標 評価について 介護技術について カンファレンスについて 良好な関係構築するためのコミュニケーション プロセスレコードについて 受け持ち利用者の理解 <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u> 情報収集・アセスメント・統合・課題について 18 直前指導 19～21 介護実習まとめ(報告書作成) 22・23 学内報告会			
[使用テキスト・参考文献] 最新・介護福祉士養成講座第10巻 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席時間、提出物、授業態度	

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 (実習指導Ⅱ)	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 横 森 将 輝 (実務 介護福祉士)	
授業の回数 22 回	時間数 44 時間	配当学年・時期 2 年次 前・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。また、地域における様々な場において対象者の生活を理解し、本人の望む生活の実現に向け、多職種と連携し介護過程の展開が実践できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者の生活全般を理解し、個別の介護過程の展開方法を学び、チームケアでの役割を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 I-2 介護実習振り返り II-1 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得)</p> <p>2~4 <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション・受け持ち利用者の理解</u> コミュニケーション技術 記録の書き方・実習に対する自己目標 評価について <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u></p> <p>5 直前指導</p> <p>6~7 介護実習Ⅱ-1 まとめ (報告書作成)</p> <p>8・9 学内報告会</p> <p>10 II-2 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得)</p> <p>11~14 <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション・受け持ち利用者の理解、施設実習に対する自己目標、評価について</u> <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u> 事例研究 事前学習</p> <p>15 実習直前の指導</p> <p>16~18 II-3 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得) <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション・受け持ち利用者の理解、施設実習に対する自己目標、評価について</u> <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u></p> <p>19 直前指導</p> <p>20~22 事例研究まとめ</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新・介護福祉士養成講座第10巻 「介護総合演習・介護実習」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 出席時間、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習 (事例研究)	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 山本浩美 (実務 看護師) 高野享子 (実務 介護福祉士) 横森将輝 (実務 介護福祉士) 丹澤 亜紀 (実務 介護福祉士)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。また、事例研究を通して介護観を培う。			
[授業全体の内容の概要] 介護実習を通して利用者の理解を深め利用者の生活全般を理解し、 <u>個別の介護過程の展開</u> と総合的対応能力を習得する。事例研究のまとめ方を理解し、介護観の形成の意義・必要性について学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護実習を通して利用者の理解を深め利用者の生活全般を理解し、 <u>個別の介護過程の展開</u> と総合的対応能力を習得する。事例研究のまとめ方を理解し、介護観を培う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1 研究とは 介護福祉士にとっての研究の必要性・意義 研究の目的・方法・倫理的配慮 研究デザイン (山本)			
2 ケース・スタディとは、 事例研究の進め方 (山本)			
3 文献検索の方法 文献の活用法 (山本)			
4・5 研究計画書の作成・タイムスケジュールの立て方 (山本)			
6・7 文献検索 テーマの決定 (山本・高野・堀内・横森)			
8 事例研究執筆要項の説明 (山本・高野・堀内・横森) ( <u>介護過程の展開</u> を通してのケース・スタディの方法)			
9・10 卒業論文の執筆 (山本・高野・堀内・横森)			
11～14 事例研究の発表 (山本・高野・堀内・横森)			
15 まとめ (山本)			
		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席時間、提出物、授業態度、発表	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <u>実習</u> )		授業担当者 山 本 浩 美 (実務 看護師)
授業の回数	時間数 160 時間	配当学年・時期 1 年次 前・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p><u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを学ぶ。</u></li> <li>・ <u>利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認をする。</u></li> <li>・ <u>他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。</u></li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</p> <p>実践を通じて、各領域で習得した知識と技術、態度を身につける。<u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解し、自らの介護観を培う。</u></p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1 施設実習 I - 1 (見学実習 6月 6日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解する。</u> (小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型老人共同生活援助事業所等の見学)</li> <li>・ <u>多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について。</u></li> </ul> <p>2 施設実習 I - 2 (10月 14日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の日常生活の理解</li> <li>・ <u>利用者・家族とのコミュニケーションの実践</u></li> <li>・ <u>利用者の情報収集・アセスメントから課題を明確にする。</u></li> <li>・ <u>介護技術の確認</u></li> <li>・ <u>多職種協働や関係機関との連携</u> (介護老人福祉施設、介護老人保健施設および障害者支援施設)</li> </ul>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習要綱</li> <li>・ オリエンテーション資料</li> </ul>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>出席時間、事前学習、実習態度 実習施設からの成績評価と巡回指導における状況等による総合評価</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> )		授業担当者 横 森 将 輝 (実務 介護福祉士)
授業の回数	時間数 320 時間	配当学年・時期 2 年次 前・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人の望む生活の実現に向け、多職種と連携し、介護過程の展開が実践できる。また、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性について学ぶ。</u></li> <li>・ <u>利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開について学ぶ。</u></li> <li>・ <u>既習学習内容を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学ぶ。</u></li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p><u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。</u></p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>1 施設実習Ⅱ－1（5～6月 16日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性の理解</u></li> <li>・ <u>本人の望む生活の実現に向けた介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開</u></li> <li>・ <u>他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の実践</u></li> </ul> <p>(介護老人福祉施設、介護老人保健施設および身体者支援施設)</p> <p>2 訪問実習Ⅱ－2(9月 4日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域における様々な場において、対象者の生活を理解。</u></li> <li>・ <u>利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価。</u></li> <li>・ <u>本人の望む生活の実現に向け、多職種と連携した介護過程の展開。</u></li> </ul> <p>3 施設実習Ⅱ－3(10月～12月 20日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性の理解</u></li> <li>・ <u>本人の望む生活の実現に向けた介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開</u></li> <li>・ <u>他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の実践</u></li> </ul> <p>(介護老人福祉施設、介護老人保健施設および障害者支援施設)</p> <p>*この事例の<u>介護過程の展開</u>を通して事例研究を実施する。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習要綱</li> <li>・ オリエンテーション資料</li> </ul>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>出席時間、事前学習、実習態度 実習施設からの成績評価と巡回指導における状況等による総合評価</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解 I		授業の種類 (講義・演習) 実習)		授業担当者 山本 浩美 (実務 看護師)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>認知症のある人の生活を、「尊厳を保持する日常生活支援」「生活環境の調整」、「多職種や他機関と連携し支える」という観点から、心理や身体的機能等を学び、認知症ケアを理解するための基礎知識を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>認知症の歴史や国の背策について学ぶ</u></li> <li>・ <u>認知症の症状・診断・治療・予防について学ぶ</u></li> <li>・ <u>障害をかかえて生きることへの支援について学ぶ</u></li> <li>・ <u>認知症ケアの方向性について学ぶ</u></li> <li>・ <u>介護者支援について学ぶ</u></li> <li>・ <u>認知症の人の地域生活支援について学ぶ</u></li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>①認知症ケアの歴史や、認知症に関する国の方針と施策について理解できる。</p> <p>②認知症の定義・診断基準、四大認知症の原因疾患と症状、ケアの方向性について理解できる。</p> <p>③認知機能障害と行動心理症状（BPSD）について説明できる。</p> <p>④認知症のスクリーニングテスト、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」について理解できる。</p> <p>⑤薬物療法と非薬物療法の概要について理解できる。</p> <p>⑥認知症ケアの理念、パーソン・センタード・ケアの視点、本人の強みを生かしたケアが理解できる</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 認知症の歴史</li> <li>3 認知症の基本的理解（1）</li> <li>4 認知症の基本的理解（2）</li> <li>5 認知症の定義と診断基準</li> <li>6 記憶のしくみと認知症による影響</li> <li>7 認知症に間違えられやすい症状</li> <li>9 認知症の原疾患</li> <li>10 認知症の診断と検査</li> <li>11 認知症の人への介護（1）</li> <li>12 認知症の人への介護（2）</li> <li>13 認知症の人を支える社会資源</li> <li>14 家族への支援</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 最新 介護福祉士養成講座（第13巻） 「認知症の理解」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者 山本浩美 （実務 看護師）	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次 前期		必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>「認知症の理解Ⅰ」の内容を踏まえ、本科目では、<u>認知症に伴う心と体の変化と日常生活</u>について事例を通して学習する。認知症の人の生活の場は、在宅・グループホーム・老人福祉施設等多様である。認知症の人への生活支援の基本は共通しているものの、<u>生活の場の特性</u>に応じた介護を修得する。また、地域における連携および協働や、本人のみならず家族を含めた周囲の環境も配慮した介護の視点を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>認知症に伴う心の変化と日常生活</u>について学ぶ</li> <li>・ <u>認知症の人の生活の場に応じた具体的な介護</u>について学ぶ</li> <li>・ <u>連携と協働</u> について学ぶ</li> <li>・ <u>家族への支援</u>について学ぶ</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>認知症の症状が及ぼす心の変化、生活面への影響、支える家族の心の変化や生活面への影響について、その支援の在り方を思考できる知識を修得し、説明できる。また、地域社会や社会制度など、環境への働きかけの重要性を理解し、「生活支援技術」に結びつけることができる。</p>					
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の目的と概要および「認知症の理解Ⅰ」の振り返り</li> <li>2 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活①</u>ー認知症への気づきとかかわり</li> <li>3 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活②</u>ー初期の認知症への介護（事例）</li> <li>4 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活③</u>ー中期の認知症への介護（事例）</li> <li>5 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活④</u>ー後期の認知症への介護（事例）</li> <li>6 認知症の人に適した生活環境と支援体制</li> <li>7 在宅で生活する認知症の人とその家族の支援</li> <li>8 グループホームで生活する認知症の人の介護</li> <li>9 介護老人福祉施設に入所している認知症の人の介護</li> <li>10 <u>連携と協働①</u>ー地域におけるサポート体制</li> <li>11 <u>連携と協働②</u>ーチームアプローチ</li> <li>12 <u>家族への支援①</u>ー家族へのレスパイトケア</li> <li>13 <u>家族への支援②</u>ー家族のエンパワメント</li> <li>14 認知症に関する制度・関係機関</li> <li>15 認知症の人へのケアと権利擁護</li> </ol>					
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>最新 介護福祉士養成講座（第13巻）                  「認知症の理解」 中央法規出版</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 山本 浩美 (実務 看護師)	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、<u>身体的・心理的・社会的変化</u>が生活にどのような影響を及ぼすかを理解し、<u>各ライフサイクル</u>の特徴に応じた生活を支援するために必要な基本的な知識を修得する学習とする。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の成長と発達の基礎的知識</li> <li>・成長・発達の方法、成長・発達の原則や影響する要因</li> <li>・人間の成長と発達の基礎的理解をライフサイクルの各期（乳幼 児期・学童期・思春期・青年期・成</li> <li>・老化に伴うこととからだの変化</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b>                  人間の成長と発達の観点から人の一生についての知識を習得、高齢期のこととからだはどのように生活に影響するかを理解し、高齢者の生活がより良いものになるよう考えることができる。</p>			
<p style="text-align: center;">[ 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 ]      テキスト P.90～P.267</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 成長・発達の考え方</li> <li>2 成長・発達の原則・法則</li> <li>3 成長・発達に影響する要因</li> <li>4 発達理論（ピアジェ・エリクソン・バステス等）</li> <li>5 発達段階と発達課題（1）（ハヴィガースト・ピアジェ等）</li> <li>6 発達段階と発達課題（2）（フロイト・エリクソン等）</li> <li>7 身体的機能の成長と発達</li> <li>8 心理的機能の発達</li> <li>9 社会的機能の発達</li> <li>10 老年期の定義</li> <li>11 老化とは・老年期の発達課題</li> <li>12 老年期をめぐる今日的課題</li> <li>13 老化にともなう身体的な変化と生活への影響</li> <li>14 老化にともなう心理的な変化と生活への影響</li> <li>15 老化にともなう社会的な変化と生活への影響</li> </ol> <p style="text-align: center;">まとめ</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  最新・介護福祉士養成講座 12                  「発達と老化の理解（第2版）」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  （試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解Ⅱ		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 功刀 仁子 (実務 看護師)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次 前・後期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解し、生活支援技術の根拠となる知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康長寿に向けての健康</li> <li>高齢者に多い症状・疾患の特徴</li> <li>高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点</li> <li>保健医療職との連携</li> </ul> <p>特にこの授業では<u>疾病の概要、原因、症状、治療、生活上の留意点</u>を調べ発表し、参加型の形態の講義として理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>高齢者に多くみられる症状や疾患が及ぼす日常生活への影響や後遺症などを理解し、疾病における観察ポイント、留意点や支援、医療職との連携などを考えることができる。また、早期発見の視点をもつことができる。</p>				
[ 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法 ]				
マ数		テキスト P188 ～P299		
1回目	オリエンテーション	Ⅰ. <u>健康長寿に向けての健康</u>		
2回目		Ⅱ. <u>高齢者の症状・疾患の特徴</u>		
3・4回目		Ⅲ. <u>高齢者に多い症状・訴えとその留意点</u> 1. <u>骨格系・筋系疾患の概要、原因、症状、治療</u> (骨粗鬆症、骨折、変形性膝関節症) (関節リウマチ、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症)		
5回目		2. <u>脳・神経系疾患の概要、原因、症状、治療</u> (パーキンソン病、脳血管疾患)		
6回目		3. <u>皮膚・感覚器疾患の概要、原因、症状、治療</u> (目、耳、皮膚疾患)		
7回目		4. <u>循環器系疾患の概要、原因、症状、治療、生活上の留意点</u> (高血圧症、虚血性心疾患など)		
8回目		5. <u>呼吸器疾患の概要、原因、症状、治療、生活上の留意点</u> (COPD、肺炎、喘息、)		
9回目		6. <u>消化器系疾患の概要、原因、症状、治療、生活上の留意点</u> (消化性潰瘍、逆流性食道炎等)		
		7. <u>腎・泌尿器系疾患の概要、原因、症状、治療、生活上の留意点</u> (前立腺疾患、尿路感染症等)		
10回目		8. <u>内分泌系・代謝系疾患の概要、原因、症状、治療・生活上の留意点</u> (糖尿病、脂質異常症等)		
11回目		9. <u>歯・口腔疾患の治療・生活上の留意点</u> (虫歯、歯周病、ドライマウス)		
12回目		10. <u>悪性新生物(癌)概要、原因、症状、治療</u> (胃がん、肺がん、大腸がん)		
13回目		11. <u>感染症の原因、症状、治療・生活上の留意点</u> (ウイルス性感染症、胆のう炎・胆管炎、疥癬)		
14回目		12. <u>その他(熱中症、脱水症、貧血、)</u>		
15回目		演習問題 まとめ		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
最新・介護福祉士養成講座 12 「発達と老化の理解(第2版)」 編集介護福祉士養成講座編集委員会 発行者 荘村明彦 中央法規出版		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解 I	授業の種類 (講義 演習・実習)		授業担当者 古屋 義博
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>介護実践を行う際の根拠となる科目として、障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響を理解する。そのために、障害の概念や障害者福祉の基本理念、障害（身体障害や重複障害、重症心身障害）に関する医学的および心理的側面や、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理社会的な支援についての基礎的な知識を獲得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念や障害者福祉の基本理念、障害のある人の心理</li> <li>・ 身体障害（肢体不自由や視覚障害など）や重複障害、重症心身障害に関する基礎的な知識</li> <li>・ 身体障害（肢体不自由や視覚障害など）や重複障害、重症心身障害のある人への心理社会的支援</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害の概念や障害者福祉の基本理念、障害のある人の心理について基礎的な理解ができる。</li> <li>・ 身体障害や重複障害、重症心身障害に基礎的な知識を習得する。</li> <li>・ 身体障害や重複障害、重症心身障害のある人への心理社会的支援の基礎的な知識を習得する。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 障害の概念</li> <li>2 障害者福祉の基本理念</li> <li>3 障害者福祉に関する制度の概要</li> <li>4 障害者福祉制度と介護保険制度</li> <li>5 障害のある人の心理</li> <li>6 肢体不自由に関する基礎的知識と肢体不自由のある人への心理社会的支援</li> <li>7 視覚障害に関する基礎的知識と視覚障害のある人への心理社会的支援</li> <li>8 聴覚障害に関する基礎的知識と聴覚障害のある人への心理社会的支援</li> <li>9 言語障害に関する基礎的知識と言語障害のある人への心理社会的支援</li> <li>10 重複障害や重症心身障害に関する基礎的知識と重複障害等のある人への心理社会的支援</li> <li>11 内部障害に関する基礎的知識</li> <li>12 内部障害のある人への心理社会的支援</li> <li>13 障害者福祉に関する現状の分析</li> <li>14 障害者福祉に関する課題の抽出</li> <li>15 まとめ（試験）</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>「最新 介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 定期試験，提出物，授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ	授業の種類 (講義 演習・実習)		授業担当者 古屋 義博
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>介護実践を行う際の根拠となる科目として、「障害の理解Ⅰ」に引き続き、障害のある人の心身の機能が生活に及ぼす影響を理解する。そのために、障害（知的障害や精神障害、難病など）に関する医学的および心理的側面や、本人と家族が地域で自立した生活を継続するために必要とされる心理社会的な支援、他職種連携や家族への支援に関する基礎的な知識を獲得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的障害や精神障害、難病などに関する基礎的な知識</li> <li>・ 知的障害や精神障害、難病などのある人への心理社会的支援</li> <li>・ 他職種連携や家族への支援に関する基礎的な知識</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 知的障害や精神障害、難病などに基礎的な知識を習得する。</li> <li>・ 知的障害や精神障害、難病などのある人への心理社会的支援の基礎的な知識を習得する。</li> <li>・ 他職種連携や家族への支援に関する基礎的な知識を習得する。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションおよび「障害の理解Ⅰ」の復習</li> <li>2 知的障害に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>3 知的障害のある人への心理社会的支援</li> <li>4 精神障害に関する医学的側面の基礎知識と心理社会的支援</li> <li>5 高次脳機能障害に関する医学的側面の基礎知識と心理社会的支援</li> <li>6 発達障害に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>7 発達障害のある人への心理社会的支援</li> <li>8 難病に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>9 難病のある人への心理社会的支援</li> <li>10 連携と協働 (1) 関係機関との連携やチームアプローチ</li> <li>11 連携と協働 (2) 家族への支援</li> <li>12 心理社会的支援の計画 (plan) と実行 (do) の実際－事例研究</li> <li>13 心理社会的支援の評価 (check) と改善 (action) の実際－事例研究</li> <li>14 障害者への心理社会的なケアに関する現状の分析</li> <li>15 障害者への心理社会的なケアに関する課題の抽出</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>「最新 介護福祉士養成講座 第14巻 障害の理解」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 定期試験, 提出物, 授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I (健康論)	授業の種類 (講義) 演習・実習)	授業担当者 刃 刀 仁 子 (実務 看護師)	
授業の回数 8 回	時間数 16 時間	配当学年・時期 1 年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  根拠に基づいた科学的な介護を提供するために、人間の<u>こころとからだのしくみ</u>を理解する。介護の対象である人間の理解を深め、社会や環境が人間の健康に及ぼす影響を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                  ・介護技術の根拠となる人体の構造・機能・<u>こころとからだのしくみ</u>を理解する。                  ・介護の対象である人間を環境・社会・健康の概念から理解する。                  ・健康を得るための取り組みについて歴史的視点から概要を理解する。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</b>                  介護サービスを提供するうえで必要な<u>からだのしくみ</u>を理解し、<u>健康とは何か</u>を思考できる。                  多様化した介護ニーズに適応できるためには専門的知識が必要であることを理解できる。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>                  コマ数</p> <p>1    オリエンテーション    <u>こころとからだのしくみの理解の基礎</u>                  ( 健康の意義と学ぶ必要性 )</p> <p>2    人間と健康    「人間」とは</p> <p>3～4    健康と介護    「健康」とは    「介護」とは                  (健康と疾病    WHO    アルマ・アタ宣言    日本国憲法    ウェルネス)                  (保健医療福祉システム    ヘルスプロモーション    ソーシャルサポート)</p> <p>5    健康と環境    「環境」とは    環境が健康に及ぼす影響</p> <p>6    健康のレベル、目標 (ウェルビーグ    ライフステージ    QOL)</p> <p>7    人権(人間の尊厳)と介護の倫理</p> <p>8    他職種との連携</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  最新 介護福祉士養成講座 第11巻                  「こころとからだのしくみ」                  中央法規</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  (試験やレポートの評価基準など)                   定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 心ころとからだのしくみⅡ （心ころのしくみの理解）		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者 山本浩美 （実務 看護師）
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前期		必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>根拠に基づいて科学的な介護を提供するために、人間の心ころのしくみである人間の欲求の基本的な理解や感情の思考等を理解する。複雑な疾病を重複し、認知症など専門的な知識でもって介護を必要とする高齢者や障害者に適切に対応できる能力を持つ必要性を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする人の生活支援をするため、介護実践の根拠となる人間の心理、脳の構造や機能などの基礎知識を学ぶ。</li> <li>・人間の欲求の基本的な理解や感情の思考等を学ぶ。</li> <li>・心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、生活継続に必要な心理・社会的支援について学ぶ。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①人間の欲求の基本的な理解ができる。</li> <li>②自己概念と尊厳について理解できる。</li> <li>③人間の心ころの基本的理解と脳の構造や機能、脳と心ころのしくみの関係性が理解できる。</li> <li>④心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族に必要な心理・社会的な支援へ結び付けて考えることができる。</li> </ol>				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 心ころのしくみを理解する必要性</li> <li>2 脳のつくりと働きの理解</li> <li>3 感情、欲求、記憶のしくみ</li> <li>4 思考、判断、創造性のしくみ</li> <li>5 心ころについての考え方</li> <li>6 感覚、知覚、認知のしくみ</li> <li>7 動機づけのしくみ（動機づけと欲求）</li> <li>8 感情のしくみ</li> <li>9 自分を守る心ころのしくみ（1）防衛機制について</li> <li>10 自分を守る心ころのしくみ（2）適応と適応障害について</li> <li>11 ストレス関連障害</li> <li>12 心ころの発達</li> <li>13 自己概念について</li> <li>14 心ころと脳、生きることの意味について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> 最新 介護福祉士養成講座 第11巻 「心ころとからだのしくみ」 中央法規			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ところとからだのしくみⅢ (からだのしくみの理解)		授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 刃 刀 仁 子 (実務 看護師)
授業の回数 8 回	時間数 16 時間	配当学年・時期 1 年次 前・後期	必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>根拠に基づいた科学的な介護を提供するために、人間の<u>ところとからだのしくみ</u>を理解する。疾病を重複し、認知症など専門的な知識を必要とする高齢者や障害者の介護を適切に実施するために必要な知識を習得し、対応できる基礎的能力を養う。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造・機能について学ぶ。</li> <li>・介護サービスを安全に提供する為にところとからだのしくみについて学ぶ。</li> <li>・身体機能が障害された時の介護の必要性を考えるための観察ができる。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</b></p> <p><u>からだのしくみを系統的に理解</u>する。介護サービスを安全に提供するための根拠がわかる。観察の視点や方法を理解し、測定できる。他職種と連携し共通理解するための基礎的知識を身につける。</p>				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ところとからだのしくみを理解する必要性                      からだの構成 (組織 細胞 (人体の構造と区分 解剖学用語 組織 細胞 )</li> <li>2 <u>からだのしくみの理解</u> からだを動かすしくみ (骨格系 筋肉系 神経系)</li> <li>3 <u>からだのしくみの理解</u> 生命活動の調節 (恒常性のしくみ 血液・血管系)</li> <li>4 <u>からだのしくみの理解</u> 心臓のしくみ (循環器系) 血圧の定義</li> <li>5 <u>からだのしくみの理解</u> 呼吸のしくみ (呼吸器系)</li> <li>6 <u>からだのしくみの理解</u> 消化・吸収のしくみ、食べるしくみ(嚥下)                      (消化器系 内分泌・ホルモン系)</li> <li>7 <u>からだのしくみの理解</u> 排泄のしくみ (腎臓・泌尿器系)                      免疫のしくみ</li> <li>8 <u>からだのしくみの理解</u> バイタルサインズ(生命の徴候 )                      (呼吸・体温・血圧・脈拍測定、心音、腸蠕動音、                      パルスオキシメーター)</li> </ol>				
使用テキスト・参考文献 最新 介護福祉士養成講座 第11巻 「ところとからだのしくみ」中央法規出版社		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、小テスト 提出物、授業態度		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ころとからだのしくみⅣ （生活支援に関連した ころとからだのしくみの理解）		授業の種類 （講義） 演習・実習		授業担当者 山本 浩美 （実務 看護師）														
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前・後期	必修・選択 必修															
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  根拠に基づいた科学的な介護を提供するために、生活支援の場面に応じたころとからだのしくみ及び機能低下が生活に及ぼす影響について学び、適切に対応できる基礎知識を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                  移動、身じたく、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠等の生活場面ごとにころとからだのしくみ、                  心身の機能低下や障害が生活に及ぼす影響、変化に対する観察ポイント、医療職との連携について学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b>                  介護技術の根拠となる生活支援における心身の状態を理解し、安全・安楽に日常生活を支えるための留意点や心理的側面への配慮について考えられ、心身の機能低下の予防の視点をもつことができる。</p>																		
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>                  コマ数</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 15%;">1～3回目</td> <td>オリエンテーション <u>移動に関連したころとからだのしくみ</u> (移動のしくみ 移動への影響 変化の気づきと対応)</td> </tr> <tr> <td>4・5回目</td> <td><u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u> (身じたくのしくみ 身じたくへの影響 変化の気づきと対応)</td> </tr> <tr> <td>6・7回目</td> <td><u>食事に関連したころとからだのしくみ</u> (食事のしくみ 食事への影響 変化の気づきと対応)</td> </tr> <tr> <td>8・9回目</td> <td><u>入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ</u> (入浴・清潔保持のしくみと影響 変化の気づきと対応)</td> </tr> <tr> <td>10～12回目</td> <td><u>排泄に関連したころとからだのしくみ</u> (排泄のしくみ 排泄への影響 変化の気づきと対応)</td> </tr> <tr> <td>13・14</td> <td><u>睡眠に関連したころとからだのしくみ・演習問題</u> (睡眠のしくみ 睡眠への影響 変化の気づきと対応)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>演習問題・まとめ</td> </tr> </table>					1～3回目	オリエンテーション <u>移動に関連したころとからだのしくみ</u> (移動のしくみ 移動への影響 変化の気づきと対応)	4・5回目	<u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u> (身じたくのしくみ 身じたくへの影響 変化の気づきと対応)	6・7回目	<u>食事に関連したころとからだのしくみ</u> (食事のしくみ 食事への影響 変化の気づきと対応)	8・9回目	<u>入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ</u> (入浴・清潔保持のしくみと影響 変化の気づきと対応)	10～12回目	<u>排泄に関連したころとからだのしくみ</u> (排泄のしくみ 排泄への影響 変化の気づきと対応)	13・14	<u>睡眠に関連したころとからだのしくみ・演習問題</u> (睡眠のしくみ 睡眠への影響 変化の気づきと対応)	15	演習問題・まとめ
1～3回目	オリエンテーション <u>移動に関連したころとからだのしくみ</u> (移動のしくみ 移動への影響 変化の気づきと対応)																	
4・5回目	<u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u> (身じたくのしくみ 身じたくへの影響 変化の気づきと対応)																	
6・7回目	<u>食事に関連したころとからだのしくみ</u> (食事のしくみ 食事への影響 変化の気づきと対応)																	
8・9回目	<u>入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ</u> (入浴・清潔保持のしくみと影響 変化の気づきと対応)																	
10～12回目	<u>排泄に関連したころとからだのしくみ</u> (排泄のしくみ 排泄への影響 変化の気づきと対応)																	
13・14	<u>睡眠に関連したころとからだのしくみ・演習問題</u> (睡眠のしくみ 睡眠への影響 変化の気づきと対応)																	
15	演習問題・まとめ																	
使用テキスト・参考文献 最新 介護福祉士養成講座 第11巻 「ころとからだのしくみ」 中央法規出版社		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、授業態度																



授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケア I	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 塩澤紀子(実務 看護師) 山本浩美(実務 看護師)	
授業回数	時間数 50 時間	配当学年・時期 1 年次 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療的ケア実施の基礎を理解する。</li> <li>・ 喀痰吸引の基礎的知識・実施手順を理解する。</li> <li>・ 経管栄養の基礎的知識・実施手順を理解する。</li> <li>・ 急変・事故発生時の対応と事前対策を理解する。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>人間のからだのしくみの基本を理解し、根拠に基づいて科学的な医療的ケアを提供するために必要な知識を理解する。医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を理解する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療的ケア実施の基礎—基本的な心構え</li> <li>2 人間と社会—個人の尊厳と自立、医療の倫理・利用者や家族の気持ちの理解</li> <li>3 保険医療制度とチーム医療—保健医療に関する制度、医療行為に関する法律 チーム医療と介護職員との連携</li> <li>4 安全な療養生活—喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生法</li> <li>5 感染予防と清潔保持—感染予防、介護職員の感染予防、療養環境の清潔・消毒法 滅菌と消毒</li> <li>6 健康状態の把握—身体・精神の健康、健康状態を知る項目、急変状態について</li> <li>7 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」—呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態 喀痰吸引とは、喀痰吸引で用いる器具・器材のしくみ、清潔の保持 人工呼吸器と吸引、子どもの吸引、喀痰吸引にともなうケア、 家族の気持ちと対応、説明と同意、呼吸器の感染予防 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と 事前対策、報告および記録、喀痰吸引の手順と留意点</li> <li>8 高齢者および障害者・児の「経管栄養」—消化器のしくみと働き、消化器の主な症状 経管栄養とは、改管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点、 子どもの経管栄養について、経管栄養に必要なケア、経管栄養を受ける 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、経管栄養の感染と予防 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応 と事前対策、報告および記録、経管栄養の実施の手順と留意点</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>最新 介護福祉士養成講座 第15巻 「医療的ケア」 中央法規</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験 (90%以上)、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅡ		授業の種類 （ 講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習 ）		授業担当者 塩澤紀子(実務 看護師) 山本 浩美(実務 看護師) 三井たかね(実務 看護師) 飯野まどか(実務 看護師)																									
授業回数	時間数 規定回数以上	配当学年・時期 1年次 後期		必修・選択 必修																									
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施の基礎を理解する。</li> <li>・シミュレーターを用いて喀痰吸引の基礎的知識・実施手順を理解し、安全・安楽かつ効果的に実施でき一人で実施できる。</li> <li>・シミュレーターを用いて経管栄養の基礎的知識・実施手順を理解し、安全・安楽かつ効果的に実施でき一人で実施できる。</li> <li>・急変・事故発生時の対応としてシミュレーターを用いて救急蘇生法の基礎的知識、実施手順を理解し効果的に実施できる。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b>                  人間のからだのしくみの基本を理解し、根拠に基づいて科学的な医療的ケアを提供するために必要な知識を理解する。医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を身につける。</p>																													
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p><b>基本研修</b>                  医療的ケアの講義を修得し、筆記試験の合格基準に達した者に限定</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">1</td> <td style="width: 20%;">たんの吸引</td> <td style="width: 50%;">口腔内吸引</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">5回以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>鼻腔吸引</td> <td style="text-align: center;">5回以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>気管カニューレ内</td> <td style="text-align: center;">5回以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2</td> <td>経管栄養</td> <td>胃ろうまたは腸ろう</td> <td style="text-align: center;">5回以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>経鼻経管栄養</td> <td style="text-align: center;">5回以上</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3</td> <td>救急蘇生法</td> <td>救急蘇生法・AED 演習</td> <td style="text-align: center;">1回以上</td> </tr> </table> <p>* 1・2の演習については、5回行い5回目が評価表の手順通りにできること、5回目手順どおりできない場合は、さらに継続して行う</p>						1	たんの吸引	口腔内吸引	5回以上			鼻腔吸引	5回以上			気管カニューレ内	5回以上	2	経管栄養	胃ろうまたは腸ろう	5回以上			経鼻経管栄養	5回以上	3	救急蘇生法	救急蘇生法・AED 演習	1回以上
1	たんの吸引	口腔内吸引	5回以上																										
		鼻腔吸引	5回以上																										
		気管カニューレ内	5回以上																										
2	経管栄養	胃ろうまたは腸ろう	5回以上																										
		経鼻経管栄養	5回以上																										
3	救急蘇生法	救急蘇生法・AED 演習	1回以上																										
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  最新 介護福祉士養成講座 第15巻                  「医療的ケア」 中央法規</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  評価項目に基づき評価する                  すべての項目を合格した場合修了</p>																										

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅢ		授業の種類 ( 講義・演習・実習 (見学) )		授業担当者								
授業回数	時間数	配当学年・時期 2年次 前・後期		必修・選択 選択								
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施の基礎を理解する。</li> <li>・利用者・家族の了解を得て、喀痰吸引の基礎的知識・実施手順を理解し、安全・安楽かつ効果的に実施（見学）できる。</li> <li>・利用者・家族の了解を得て、経管栄養の基礎的知識・実施手順が理解し、安全・安楽かつ効果的に実施（見学）できる。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>指導看護師の指導を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、医師・指導看護師と連携し、その指示に基づいて医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を身につける。</p>												
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>実地研修 医療的ケアⅠとⅡを修了した者に限る。 喀痰吸引・経管栄養を必要とする者・家族の書面による同意、医師・看護師等関係者による連携体制の確保等の要件を満たす必要がある</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; vertical-align: top;">1</td> <td style="width: 35%; vertical-align: top;">たんの吸引</td> <td style="width: 35%; vertical-align: top;">口腔内吸引 鼻腔吸引 気管カニューレ内</td> <td style="width: 15%; vertical-align: top;">10回以上 20回以上 20回以上</td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2</td> <td style="vertical-align: top;">経管栄養</td> <td style="vertical-align: top;">胃ろう又は腸ろう 経鼻経管栄養</td> <td style="vertical-align: top;">20回以上 20回以上</td> </tr> </table> <p>*指定事業所にて、医師・指導看護師の指導のもと実施。実施困難な場合は見学のみ行う</p> <p>修了認定の条件 規定回数以上の回数を実施し、下記の（ア）（イ）のいずれも満たすこと （ア）累積成功率 70%以上 （イ）最終3回のケアの実施において手順通り不成功が1回もない（連続3回成功）</p>					1	たんの吸引	口腔内吸引 鼻腔吸引 気管カニューレ内	10回以上 20回以上 20回以上	2	経管栄養	胃ろう又は腸ろう 経鼻経管栄養	20回以上 20回以上
1	たんの吸引	口腔内吸引 鼻腔吸引 気管カニューレ内	10回以上 20回以上 20回以上									
2	経管栄養	胃ろう又は腸ろう 経鼻経管栄養	20回以上 20回以上									
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b> 最新 介護福祉士養成講座 第15巻 「医療的ケア」 中央法規</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b> 評価項目に基づき評価する すべての項目を合格した場合修了</p>										

